

会 報

第558号

発行日 令和3年11月12日

担 当 菊川市立小笠北小学校

ことばの教室

〒437-1522

静岡県菊川市嶺田59番地

TEL 0537-73-2054

FAX 0537-73-2432

学校教育目標 自信をもち、自分の力を発揮する子
重点目標 自分で考え行動する子

～ 小笠北小学校 言語通級指導教室(ことばの教室)の紹介 ～

【教室のあらまし】

平成15年4月開設

学齢担当1名

平成16年9月幼児教室開設

幼児担当1名



【指導人数】

	構音障害	言語発達遅滞	吃音	合 計
5歳児	9	6	1	16
4歳児	2	5		7
3歳児				
合 計	11	11	1	23

(幼児教室)

〈指導について〉



- ・個別指導。必要に応じて保護者にも同席してもらう。
- ・指導時間は45分～1時間程度。
- ・月に2回(隔週)程度の指導を行う。
- ・個々の発達状況や問題に応じた課題を、個々の関心や取り組み姿勢を考慮して進める。聴覚認知力、記憶力の低いケースが多く、短い課題を組み合わせたり、区切りでシール、スタンプ等、見て分かりやすいご褒美を行っている。
- ・年度始めにお知らせのチラシ(別ページ参照)を配布し、保護者に周知するようにしている。(相談は随時受け付け)
- ・子ども未来課で行っている園訪問で子どもの様子を観察してもらい、必要なケースには、園から保護者に紹介してもらい、相談につながるケースが多い。
- ・園とは随時連絡をとり、情報を共有している。子育て応援課の保健師とも情報を共有しながら対応している。

	構音障害	言語発達遅滞	吃音	合 計
1 年	6	1		7
2 年	3	2	1	6
3 年	3	1	1	5
4 年		1		1
合 計	12	5	2	19

(学齢教室)

〈指導について〉



- ・行動観察、検査、情報聴取等から、個々の児童の実態に応じた、より効果的な指導方針や指導方法を検討する。
- ・子どもたちが自信をもち、安心して話することができるように、受容的に接することで、信頼関係の構築に努める。よさや小さな進歩を即座に認め、称揚し、強化につなげる。
- ・保護者や学級担任と「共に」の姿勢で臨み、情報交換をすることを通して、支援や関わり方の共通理解を図る。

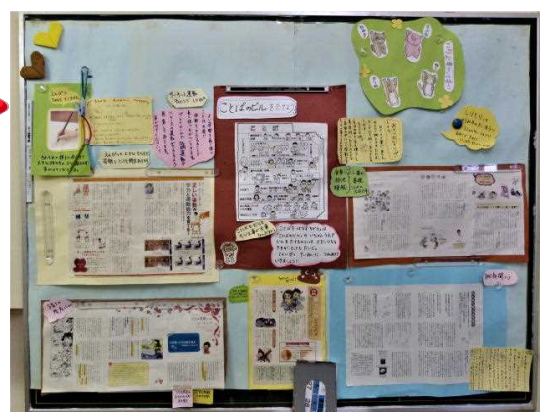
〈指導法例〉

構音障害	① 口作り・耳作り・音づくり ② 段階を踏んだ徹底指導
言語発達	音韻意識、聴覚記録、語彙の理解表出、文の理解表出、視覚活用、ゆっくり簡単な表現で話す、即時言語化、拡張模倣、言い直し等
やりとり(語用)	適切な言い方や分からない時の対処等、具体的に教える。
吃音	吃音について率直に語ることができたり、相談できたりする場に。
読み書き	聴覚活用、書き慣れ、読み慣れ、ひらがな100%→カタカナ→漢字の読み、特殊音節、読み取り、視機能トレーニング等

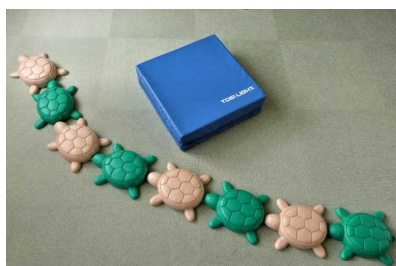
【環境整備】



〔待合室〕



〔保護者へのお知らせボード〕



身体のバランス感覚や手先の器用さを楽しみながら育てていく教材・教具・おもちゃがいっぱい！

【ことばの教室紹介のパンフレット】

こんな教室です。

《通級している保護者の方の感想から》

ことばの教室は、友だちから聞いて知っていました。先生から勧められたときは、とまどいましたが、相談に行くことにしました。

はじめに検査をやりました。日頃の様子や、悩みも聞いてもらいました。何がでかか、どうしたらいいのかが、具体的に覚えてきて、それを中心に、トレーニングしてもらうことになりました。

発音の練習や、基本の口のあけ方や、早口ことばなど、遊び感覚で、楽しくトレーニングでき、本人もこの時間をとても楽しみにしています。子どもがよるころまで通ううちに、上達し、大きな声で発表できるようになりました。学校行事でも発表でき、うれしかったです。

1対1での関わりの中で、すごくほめてもらったり、いいねに教えてもらったりして、自信を持てるようになったのだらうと思います。

もう少し早く来ればよかったなと、思っています。



相談も・指導も 無料です。

手続は 下記の通りです。

- まずは、担任の先生にご相談ください。
申し込みは、原則園や学校を通して行います。
気になることがあれば、直接お電話ください。
- 相談当日は、
 - 保護者に、お子さんを連れてきていただきます。
 - 日頃の様子や、育ちの様子、心配なことなどを、うかがいます。
 - ようすを観察し、検査で状態を把握します。
 - 保護者に、現在のようすを説明し、今後のことを一緒に考えます。
 - 指導が必要な場合は通級をお勧めします。通級の希望があれば、入級手続きをします。
- 「通級指導」
 - 家庭、在籍園・校、市教委の了解のもと手続きをし、園や学校から、ことばの教室に通うことを、通級制と言います。
 - ことばの教室には、決められた日時に通います。小学生の場合、基本は週1回45分程度です。
 - 通級途上の事故防止や、保護者との連絡を密にするため、保護者の付き添いを原則とします。
 - 原則として、一対一の個別指導です。一人一人の持っている問題はさまざまで、それにあった指導が必要になるからです。
 - 指導の後、保護者と情報交換をします。指導のようすをお伝えし、家での対応についても助言します。

菊川市立小笠北小学校

ことばの教室

学級（平成15年4月開設）
幼児（平成16年9月開設）



発音が幼い。
発音が気になる。
ことばがスムーズに出てこない。
ことば(てい)が少ない。
話の伝わりにくい。 など

話しことばにつまずきのあるお子さんのための教室です。
どうぞ、お気軽にご利用ください。

T 437-1522
静岡県菊川市横田 59 番地
Tel (0537) 73-2054
Fax (0537) 73-2432

発音が気になったら…



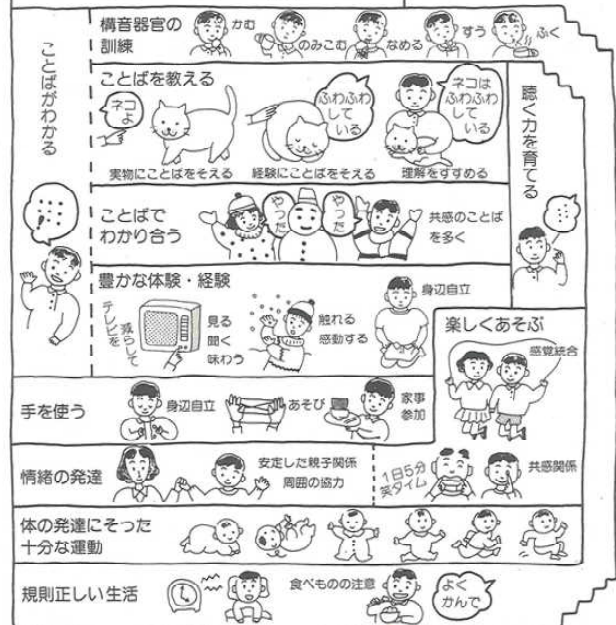
発音はやさしい音から順に覚えます。下の表をごらんください。個人差はありますが、3才児がサ行音が言えなくても、まったく問題ありません。でも、カ行音が言えない年長さんがいたら、すぐにでも対応が必要です。

こんな順序でおぼえていきます

年 齢	発音の発達基準
1 歳	バビバペボ、パピバペボ マミムメモ、ナニヌネノ タテ、ダデの音
2 歳	
3 歳	カクケコ、ガググゴ、 キ、キャキュキョ、 ギ、ギャグユ、ギョ ジ、ジャ、ジュ、ジョ ジ、ジャ、ジュ、ジョ チ、チャ、チュ、チョ ハフハボ
4 歳	
5 歳	サセセソ、ザゼゼロ、ツの音
6 歳	

* 一応の目安 *	相談時期	指導開始時期
鼻に抜けた声	すぐにも	すぐにも
バ行・バ行・マ行 が言えない。	年少	4才前後
カ行・タ行 が言えない。	年中前半	年中～年長
サ行・シャ行 が言えない。	年中後半	年長～
ウ行 が言えない。	年長前半	年長後半～

ことば



ことばを育てるには、上のような、土台づくり・生活づくりが大事です。
あわせて、あせらず、日々のかわりを充実させましょう。

「ふむふむ。そうなの、へーえ。」 じっくり聞いてくれる人が身近にいる子は幸せです。
〇〇さんに話したい、伝えたいという思いが、ことばを伸ばすのです。
たくさんおしゃべりを楽しむことが、順序立てて話す力や書きことばの土台につながります。

日々是好日



R3 ことばの教室発 2021. 10. 11

◆ 1年生のKさんと学習しているときのこと…。

「じゃ、教科書を読んでもらおうかな。今日、国語でどこを勉強したの？」

「ううんとね…。あっ、教科書忘れちゃったあ!？」

「いいよ。教室にあるからね。それ使って読んでもらうよ。」

「あれ？ 教科書二つある？」

「そうだよ。1年生はね、『パンダ』(上)の教科書と『ヤギ』(下)の教科書と2冊あるんだよ。」

「今日勉強したのは『かずと かんじ』。私、ここを読むから、先生はこっち(『下』の教科書)のここ(『おかゆの おなべ』)を読んで!!」

「いやいや、先生も読むんじゃないくて、先生はKさんが読むのを聞きたいんだよね。それに、この『おかゆの おなべ』、こんなに字がいっぱいあるし、漢字もたくさんあるじゃん!!」

と言うと、Kさんに、

「先生は“できる人”だよ。頑張ってよ。」

と言われました。あまりに自然に言われたので、思わず吹き出してしまいましたが、Kさんも、いつも誰かにそう励まされているのかなと思いました。そして、逆にKさんのこの一言で、自分自身を反省しました。

私は、指導している中で、Kさんのように、タイムリーに子どもたちを励ましたり、声掛けをしたりしているだろうか…。



◆ 2年生のSさんと学習しているときのこと…。

「あっ、先生。今日、『漢字テスト』満点だったっ!!」

「すごいじゃん。Sさん、毎日、漢字の書き取り、しっかりやっているもんね。」

「それからね、昨日、算数のテストが返ってきたんだけど、算数も満点だったっ!!」

「すご〜い!! 算数も満点だったの!? 調子いいねぇ。」

「そうだね。先生、最近、私、何か調子よくない?」

「調子いいよね。うんと調子がいいことを“絶好調”っていうんだよ。」

「ふ〜ん、そうなんだ。お母さんも「最近調子いいね。」って言ってたよ。」

Sさんは算数に苦手意識があり、計算力のアップをという申し送り事項がありました。漢字テストや算数のテストで満点をとったことで、Sさんの自信に少しでもつながっていただければと思いました。Sさんは、更にうれしいことを言ってくれました。

「あ、それから、学校で『自分のいいところ』を発表したんだよ。」

「へえ、それでSさんは何て言ったの？」

「ええとね、「最近、発表ができるようになりました。」って言ったの。」

「そう!? それはよかった!! Sさん、「発表が苦手」って言ってたもんね。それができるようになったんだから、すごいことだよ!!」

「このまま、絶好調が続くように頑張ろうね!!」



「うん、頑張るっ!!」

Sさんは吃音をもっているお子さんです。私も子どもの頃、発表が苦手だったので、「発表するときって緊張するよね。間違っただけと言っちゃったりしないかなとか、誰かに笑われたりしないかなって思っちゃうと、発表しづらいよね。」

と言うと、Sさんも、

「うん、そうだね。でもね、2年生になって、だんだん発表ができるようになったの。」
とうれしそうに伝えてくれました。担任の先生の学級経営が大きいと思いますが、今まで苦手だと思っていたことに自分からチャレンジしようとしているSさんにエールを送りたいと思います。

専門的な吃音指導ができなくて申し訳ないのですが、ことばの教室では、できるだけ話をする機会を多く設けています。学校であった出来事、友だちのこと、家であったことなど、自由に話をしてもらいます。Sさんは何でも話してくれます。そうした中で、吃音の出現は少なくなってきました。そういう意味では“絶(舌)好調”です!!(^_^)

- ◆ 8月に県総合教育センターであった研修会で、同じグループになった、ある先生から、構音指導の資料として『ダブル』(米国名: Spot It!)というゲームを教えてくださいました。幼児担当のK先生にその話をしたら、

「最近、コロナで『おうち時間』が増えたっていうニュースの中で紹介されていたよ。」との返事。さすが、情報通のK先生です。

円形のカードが55枚あります。一枚のカードには8個のイラストが描かれています。(一つ一つ違います) このカードを一枚、「じゃんけん、ぽい!」で出し、両方のカードにある同じイラストを早く見つければ、その2枚のカードをもらいます。

手持ちのカードが終わるまでに、たくさんカードをとった方が勝ちというルールです。右の基本形の外、『ポケモン』『ワンピース』『アナと雪の女王』などのキャラクターものもあります。



グループの先生から教えていただいたのは、この応用版です。構音指導用に『イラスト』を「カ行」の言葉、「サ行」の言葉などに変更することです。「これは使える!!」と思いました。それは、だんだん学年が上がってくると、自分がうまく発音できていない「音」があることを自覚し始め、直接的な練習を避けたがる子が出てくるからです。この『ダブル』だったら、

『楽しくゲームをしながら、発音練習(構音指導)ができるかもしれない!!』と思ったのです。

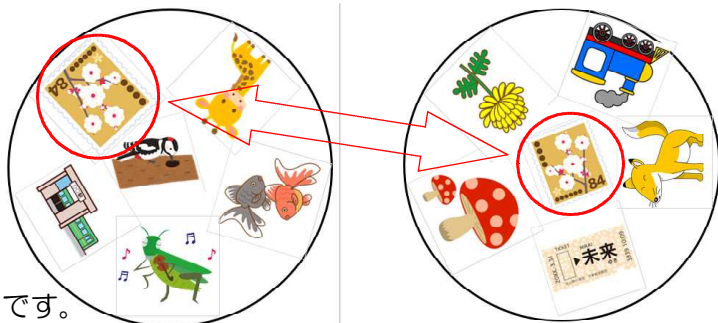
AさせたいならBと言え

ですね。(教育新書67『AさせたいならBと言え』(岩下修著)明治図書)

いただいたデータを元に「サ行」「ザ行」「シ」「カ行」「キ」「ツ」の音の『ダブル』を作りました。8個のイラストは厳しいので、一枚に6個のイラストにしました。(カードは30枚)

子どもたちはゲームで「早くペアのイラストを見つけて自分のカードにしたい!」と思いますし、私の方は「見つけたペアのイラストの名前を言わせたい!」というねらいがあります。

練習のための練習ではなく、より日常生活に近い環境の中での発音になります。これからも楽しみながら発音練習できる工夫を考えていきたいです。



校内の先生方に、ことばの教室での様子をお知らせしています。